



入所者の目の前でそばを打つ

入所者に年越しそばを振舞う 口和そばの会が老人施設を訪問

口和そばの会(代表水本敏則さん)が12月17日、特別養護老人ホーム「ハートウイング」を訪問し、当施設をはじめグループホーム永田ハイム、ケアハウス永楽荘の入所者と職員120人に、そばを振舞いました。

これは、施設に入所されている方に年越しそばを味わってもらおうと今年で7年目。

口和そばの会の8人は、前日に挽いたそば粉を使用し、入所者の目の前でそばを打ち、湯がき、かけそばを作りました。入所者は打ち立てのそばを口に、「おいしいそばを食べたので、いい年が迎えられそう」と喜んでいました。

ひわもえぎ色の新そばを楽しむ そば打ち体験交流会

12月17日、グリーンポート吾妻路でそば打ち体験交流会(比和そばの会の主催)が開催され、30人が参加しました。

交流会では、比和で生産された新そばを使用。この時期のそばは、淡い黄緑色で味・香りも格別なことから、比和そばの会では「ひわもえぎ色」の新そばとしてPRしています。

参加者は、比和そばの会の指導を受けながら、楽しそうにそば打ちを体験。出来たてのそばを、早速かけそばにして試食すると、会場は新そばの香りいっぱいになりました。参加者は「思っていたより、そばをこねるのは大変だったけど、自分で打ったそばはおいしい」と話していました。

比和特産のそばは、25ヘクタールに作付し、県内外へ出荷しています。



水を加えながらそば粉をまぜる

新春神楽で福招く 「戸山会」が正月に初舞

1月2日、口和老人福祉センターで「戸山会」による新春神楽公演が披露されました。

戸山会は地元常定地区に古くから伝わる王子神楽を継承する団体で、13年前に30人余りの大人で結成しました。

新春神楽公演は、地元で行う年に一回の定期公演で、帰省客と一緒に新春を祝おうと、4年前から正月に行われています。

この日は、猿多彦の悪魔払い・スサノオノミコトの大蛇退治・恵比寿舞で福の餅まきなどの芸を熱演し、約40人の観客は口和の新春を飾る初舞を楽しみました。



大蛇退治を熱演

各地域の雑煮を食べ比べ 七福雑煮を楽しむ会

市内各地域の雑煮を同時に味わえる「七福雑煮を楽しむ会」が1月9日、庄原市街地の楽笑座で行われました。

市民グループ「楽笑座友の会」が主催し、旧市町単位の7地域から出店。

山陰で採れる岩のり「うっぷり」を入れたものや、ハマグリ・ブリ・野菜を入れた貝たくさんなもの、鶏肉・ごぼうを入れたものなど、各地域の雑煮が用意されました。



餅を1つ入れ、各ブースで具とお汁を入れてもらう

「同じしょうゆベースだが、だしや具材によって味が全く違う」「磯の香りが食欲をそそる」と、客の多くが2杯以上注文し、各地域の雑煮を食べ比べていました。

用意された雑煮は昼過ぎに完売しました。



各地域の雑煮を確認して注文

各地域で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

カメラレポート

災害のない明るいまちを目指し団結 庄原市消防出初式

平成19年庄原市消防出初式が1月14日、庄原市総合体育館で行われ、消防団員885人と備北地区消防広域行政組合の消防署員60人が参加しました。

消防団員は、合併により昨年新調した制服で整然と整列。山口忠男団長から「昨年は、大雪や大雨により出動が多かった。防火・防災・防犯を啓発し、地域の安全、住民の安心の確保に努め、住民から信頼されるよう精進しよう」と訓示を受けました。

式では、永年勤続者たちへの感謝状の贈呈や滝口季彦市長による観閲などがありました。

昨年、庄原市では31件の火災が発生しましたが、西城地域は無火災でした。



新入団員による宣誓



体育館いっばいに整列

エネルギーを自給し、 里山文化を継承する

グリーンピア大佐村に 炭焼きシーズン到来

西城町大佐地区の自治振興組織「グリーンピア大佐村」に炭焼きの季節が到来し、12月17日、炭出し作業が行われました。

大佐地区は、昔から水稻のほかには和牛飼育・養蚕・炭焼きを主要産業としてきました。時代の流れとともに失われつつあった伝統産業、炭焼きの知識と技術を後世に伝えていこうと、平成4年の冬に炭窯をつくりました。



炭焼きに多くの人が参加

材料となる木材の確

保についても、提供者があれば住民自身が切り出し作業に出向くなど、地域ぐるみで取り組みを続けており、今ではバーベキューの燃料として、また、建物の湿度調整材としても好評で、自治振興区活動の貴重な自主財源となっています。

材料不足や高齢化など課題はありますが、共同作業によって山の荒廃を防ぎ、エネルギーを自給する里山文化継承の試みは、西城公民館の体験交流事業との連携など、広がりを見せています。



公民館の体験学習事業で子どもたちも作業に参加

耳を澄ませば、時代の調べが走馬灯のように 蓄音機出前コンサート

12月12日、高野ふれあいプラザで昔懐かしい蓄音機コンサート(庄原市文化協会高野支部主催)が開催されました。

このコンサートは、口和在住の榎原数彦さんが、若い頃高野で仕事をしていたのを縁に、当時のレコード鑑賞をしようと、口和郷土資料館の安部博良さんの協力により行われました。

当日は、明治43年製の蓄音機をはじめ、大正時代の蓄音機の奏でる、温かく繊細な音色に聴衆が聴き入りました。はやり歌、歌謡曲の曲間には、榎原さんによる活動弁士さながらの流暢な曲紹介に、旧き良き時代にタイムスリップしたひと時となりました。

来場者の一人は「この場所で、全国に数枚しか現存していない、野口雨情作詞の「枯すすき」を耳にする事ができ、大変感動しました」と話していました。



蓄音機コンサートのDJ榎原さん(右)と安部さん(左)

輝いた 県北のドルフィンたち 水夢フェスティバル水泳大会

12月23日、西城温水プール「水夢」で第7回水夢フェスティバル水泳大会が開催され、3歳から70歳までの約110人が参加しました。

競技に先立ち、アトラクション「スイムXmasカーニバル」でアクアエクササイズを楽しんだ後、自由形、平泳ぎなどの個人種目のほか、リレーなど24種目が行われ、それぞれの自己ベストを目指しました。家族をはじめたくさんの観客から声援が送られるなか熱戦が繰り広げられ、46もの大会新記録が生まれました。



自己ベストに挑戦

「木のろうそく」で神秘的な灯り

比婆山神話への道あかり

12月24日、比和町越原で、比婆山神社一帯の県道沿いに火を灯す「比婆山神話への道あかり」(越原みこと会主催)が開催されました。

間伐材を利用して作られた木のろうそく約100本に火を灯し、子どもたちが神祇太鼓を披露しました。

真冬の凜とした澄んだ空気に灯されたろうそくの火は神秘的で、参加者は振舞われたしし汁など味わいながら、冬の夜を楽しみました。



神社一帯に神秘的な灯り

卒業証書を自分たちで作る

総領中学校が伝統的和紙づくり

総領中学校では、平成3年度から卒業証書となる和紙を3年生が自分たちで、すいています。

今年度も3年生20人が、総領和紙研究会の会員の指導を受けながら、夏の下草刈りから、12月の材料となるコウゾ、ミツマタなどの刈り取り、蒸し、皮むきなどの作業を授業として行い、放課後には材料の汚れを取り除いたり、繊維をたたいて柔らかくしたりする作業を行ってきました。



和紙を乾燥

12月19日には総領和紙研究会の秋山和子さん、大下芳枝さんの指導で、全員が水の中に溶け込んだ繊維を簀ですく作業を行いました。冷たい水の中で繊維がかたよらないようにすき、すきあがった薄い和紙が破れないように気をつけながら簀からはずす作業を、緊張した面持ちで丁寧に進めていました。

すきあがった和紙は乾燥され、3月の卒業式には卒業証書として全員に授与されます。



紙すき作業

みんなで楽しく歌って交流

東城で「うたごえひろば」

みんなで楽しく歌い、子育て中の家族の交流を深めようと「うたごえひろば」が12月27日、こどもの館で開催されました。

冬休み中の放課後児童クラブの小学生や乳幼児とその家族など、約40人が参加。宮田沢美さんが演奏するマンドリンや稲垣牧子さんのピアノ伴奏に合わせて、「大きな古時計」や「さんぽ」、「うたえばんばん」などを歌いました。

小学生からは「この歌知ってる」「もっと歌いたい」などの声が聞かれ、乳幼児は曲に合わせて体を揺らしたり、足踏みをしたりして楽しみました。

この「うたごえひろば」は、毎月第4火曜日10時30分からこどもの館で開催されています。(開催日の変更もありますので、こどもの館電話08477-2-0160へお問い合わせください。)



元気よく歌う子どもたち